

# 大正・昭和の原風景

## ―見かけなくなった木製電柱―

### ■大正昭和の原風景・木柱

木製電柱（木柱）は年配の人にとって、少年少女時代の原風景の一つといえるであろう。今は、ほとんどの電柱がコンクリート柱になってしまい、古い町並みに木製電柱がぽつんと残っていたりすると、時間がとまっているような気がする。

### ■木柱からコンクリート柱へ

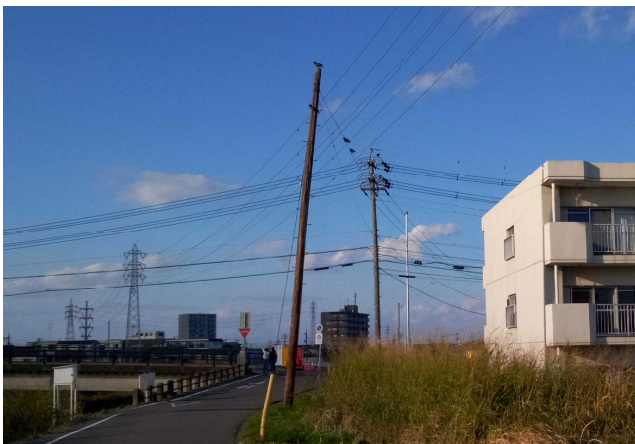
1955年頃から、国産の木材が手に入りにくくなり、耐久性や経済性からも、木柱よりコンクリート柱の優位がはっきりしてきたため、コンクリート柱への切替が進められた。このような背景の中で、1954年8月に、中部地区のコンクリート柱を手がける東海コンクリート（株）が設立された。1955年頃からは、配電柱はコンクリート柱化のほかにも、3000ボルトから6000ボルトへの昇圧、裸銅線から被覆電線の転換など近代化が進められた。最近では、停電の原因となっていた雷対策が施され、また都市部では電柱美化にも努められている。

なお、電柱は電力用、電信柱は通信用の電線の支持物であるが、一般には区別せずに使われることが多い。

### ■見られなくなった木柱

さて、1955年頃までの電柱は杉や桧、時には松が使われていた。耐久性を高めるため柱には、防腐剤としてクレオソートが高圧注入され、全体が黒茶色であった。

名古屋地域では、清須市の五条川畔に、ぽつんと立っ



清須市、五条川畔の現存する木柱

2023年筆者撮影



名古屋繁華街の電柱（木柱）

出典：『愛知県写真帖』



明治・大正時代の電柱を立てる工事

る柱が唯一の木柱である。（中部電力パワーグリッド名古屋支店調べ）。地方に出かけると、残っている木柱がまだ見付けられることであろう。

（浅野伸一）